

もちみうしな くろこげの餅見失ふどんだかな 室生犀星

とんどやきで焼いた餅を食べると、風邪を引かないといわれています。竹につけた餅をとんどの火にかざして食べたことを懐かしく思い出します。小正月の「とんどやき」も過ぎ、節分間近となりました。まだまだ厳しい冷え込みです。しかし立春を迎え、暦の上では春を迎えます。どんなに寒くても、もう春なのです。厳しい寒さの中でも希望を持って、前に前にと明るく歩いていきたいものです。さて、去年は新型インフルエンザが流行し、多くの学校で学級閉鎖が行われました。本校でも4クラス学級閉鎖を行いました。大きな流行にはなりませんでしたが、今後も、新型インフルエンザに加え季節性のインフルエンザの流行が懸念されます。よく言われる予防の基本である、うがいと手洗いの励行、部屋の湿度管理（50～60％）と換気、これだけでも相当の効き目があるそうです。毘沙門天の初寅祭が近づく頃が一年で一番寒い時期と言われています。偏食せず、温かいバランスの取れた食事をし、体力をつけてほしいものです。

三年生にとっては、これからが入試の山場です。努力の積み重ねが最後に福の神を呼ぶのです。くれぐれも、風邪などひかないようにしてください。

基礎学力定着に向けて工夫・改善を行っています

本校では、生徒の表現力やコミュニケーション能力の向上を通して「できた、わかったを実感させる授業」「授業に興味を持てるような工夫」などをポイントとして授業改善を進めることにしています。そのために研究主題を「自ら学びを追求する生徒の育成～相手を意識した表現力の向上を通して～」とし、次のような取組を進めています。



- 教員5人程度の小グループにより、授業を公開し参観した後、研究協議を行う。
- 6月に校内授業研究会、10月に公開授業研究会を開催し、研究協議を行う。
- 大学より研究アドバイザーとして講師、教育委員会より指導主事を招聘し助言を受ける。
- 相手を意識した表現力の向上を目指した授業を創造する。
 - ・ 有効なコミュニケーションをさせるため「自分の考えを持つ」活動を取り入れる。
 - ・ 一人ひとりの学びをつくるために、小グループの活動を活用する。
 - ・ 学びの質を高めるために、自分の考えを表現し仲間と共有させる。
 - ・ 活用・探究型の授業づくりとのバランスをとりながら、その基盤となる授業規律の確立や習得型学力の定着を図る。

これまで各グループの実践内容を紹介してきました。次の2グループで全ての紹介を終わります。

- クラスの全員が意欲的に授業に参加できるための工夫
- 生徒の意欲を引き出すためのコミュニケーション活動の工夫

ゲストティチャーを迎えて学習

4月26日(水)6校時、3年生全員が体育館でゲストティチャーを迎えて学習を行いました。講師は、中国新聞社読者広報センターより来校いただきました。指導の内容は、取材の仕方・記事のまとめ方などです。この学習は、総合的な学習の時間「フィールドワーク in 阿蘇」の一環で行っています。今回学習したことをもとに、修学旅行阿蘇でのファーム(農業)体験で、農家の方々からうかがったお話を、生徒の皆さんがまとめていく活動に生かしていければと考えています。

生徒会を中心にボランティア活動に取り組みます。

生徒会では、授業料が払えず学校に行くことができないタイやラオスの子供たちに奨学金を送りたいと考えています。

私たちの「書き損じはがき」と「未使用テレホンカード」を集め、NGO日本民際交流センターを通じてダルニー奨学金として活用します。目標は、はがき250枚、カード30枚で、これで子供が一人一年間学校に行くことができます。

職員室前のポストに入れてください。皆様のご協力をお願いします。(テレホンカードは、直接教員にお渡しください。)ご家庭でもご協力を宜しくお願い致します。